

各位

会社名 日東工器株式会社
代表者名 代表取締役社長 小形 明誠
(コード番号 6151 東証プライム)
問合せ責任者 常務執行役員 IR担当 野口 浩臣
(TEL 03-3755-9970)

2024年3月期決算説明 質疑応答集

この質疑応答集は、2024年5月30日（木）に開催した2024年3月期決算説明会・中期経営計画発表会および機関投資家・アナリストとの1on1ミーティングでいただいた主なご質問をまとめたものです。なお、ご理解いただきやすいよう、一部内容の加筆・修正を行っております。

(ご参考) 決算サマリー

2024年3月期
決算概要

主に迅速流体継手事業の減収により、前期比、減収減益
売上高 270億 (前期比-3.6%)
営業利益 29億 (前期比-19.3%)

2025年3月期
事業計画

増収増益を見込む
売上高 282億 (前期比+4.3%)
営業利益 30億 (前期比+3.4%)

株主還元

24年3月期の年間配当金は43円
25年3月期の年間配当金48円を予想
株主還元基本方針：連結配当性向40%を目標

新中期経営
計画

中期経営計画2026 (2024/4~2027/3)
10年後の飛躍に向けて稼ぐ力を再構築
収益構造の再点検と事業ポートフォリオの見直しを推進し、
成長戦略と資本戦略の実行を通じてPBRの改善を進める

Q1

福島に新工場を建てられるということですが、生産能力は現状と比べどの程度でしょうか？

A1

物理的には現状の1.3倍のキャパシティはありますが、中期経営計画2026の期間では、まずは安定稼働を目指しております。それが軌道に乗りましたら、次のフェーズとして、状況を見ながら生産キャパと生産効率を上げてまいります。

Q2

機械工具について、前期比で増収ではあるが減益となっています。収益性が下がっているのでしょうか？

A2

機械工具事業については、前期比で売上高が増加しました。一方、他のセグメントでは前期比で売上高が減少しています。その結果、間接費のうち売上高比率で配賦する経費の負担割合が機械工具事業において大きくなったため、減益となりました。
このような理由ですので、機械工具事業の収益力が落ちているわけではありません。

Q3

設備投資について、2024年3月期に61億円、2025年3月期に75億円と大幅に増加されています。昨年発表された金額の2倍以上です。この理由について教えてください。

A3

昨年の2023年3月期決算説明会での資料では、2024年3月期の設備投資額が28億30百万円と記載しておりますが、これには新工場の建屋の金額が漏れておりましたため、金額が大きく異なっておりました。今回発表した設備投資額は、新工場に関係する費用が含まれております。

Q4

リニア駆動ポンプ事業は過去利益がほとんど出ていませんが、事業継続の意味はありますか？

A4

リニア駆動ポンプ事業は過去利益が出ていないというご指摘ですが、数年前までは利益は出ています。ここ2年ほどは、タイバーツの為替の影響などを受けて利益が悪くなっていますが、特に海外では医療機器や先端分野にも採用されており、売上も高く収益性もある製品だと理解しています。リニア駆動ポンプ事業は、製品によって利益率にばらつきがあるため、製品ごとの収益の分析を進めております。今後、製品の商品群の構成を戦略的に検討し、収益性を向上させていきたいと考えております。

Q5

半導体向けの市場について、今後の見通しを教えてください。

A5

半導体の需要は、2024年3月期はかなり厳しい局面が続いておりましたが、足元では回復傾向にあると考えております。一部装置メーカーから当面先の発注も出てきている状況であり、国内では大型の半導体関連の工場の投資なども増えてきております。また、生成AIにおける半導体の需要にも期待をしており、2025年3月期下期あたりからは回復に向かうのではないかと考えております。

Q6 新工場を建てる理由と、2工場の人員についてお聞かせください。

A6 現在の山形と白河にある工場はどちらも老朽化が進んでおります。また、建て替えるにも拡張の余地が厳しいこともあり、福島市の新しい工業団地に工場を建て、そこに移転・統合することにしました。人員は、山形と白河からの社員を受け入れ、かつ新規採用も進めております。

Q7 新工場が稼働しはじめたら、山形と白河の工場の土地はどうするのか。

A7 現時点では、確定はしておりません。売却もしくは別の施設としての利用も検討中です。

Q8 迅速流体継手の売上高について、2024年3月期実績に対して中期経営計画の最終年度2027年3月期で22.8%アップと計画されているが、根拠は何か。

A8 2024年3月期はリチウムイオン電池の電解液向け製品および半導体向け製品の需要が減少していましたが、現在は底打ち感が見られます。加えて、国内における半導体の大型投資や生成AIによる半導体需要拡大等もあり、それらの需要を見込んでおります。

Q9 在庫が前年度より増えている理由は。

A9 現在の在庫が多いことは認識しています。機械工具と建築機器に関しては、新工場への生産移管を来年控えていますので、意図的に在庫を多めています。

以上

決算説明会書き起こし



ログミーのサイトにて、決算説明会書き起こしを発信しております。ぜひご覧ください。

<https://finance.logmi.jp/articles/379832>

決算説明会動画配信



当社では、決算説明会の動画を配信公開しております。(2025年1月末迄)ぜひご覧ください。

<https://irp-system.net/presenter/?conts=01htbwnwsm50hbmsmk2dh1wew5>